

令和4年度

小中学生作文コンクール

「感謝と成長のエピソード」

作品集



主催 上尾市社会福祉協議会
後援 上尾市・上尾市教育委員会

小学生の部 目次

【最優秀賞】

カラスが気づかせてくれたこと

上尾市立中央小学校

六年

星野

太希・・・・・・・・・・1

【市長賞】

友達で変わった自分

上尾市立原市小学校

六年

齋藤

華・・・・・・・・・・2

【教育長賞】

野球をやって身についたこと

上尾市立富士見小学校

六年

山本

伸吾・・・・・・・・・・3

【審査員特別賞】

祖父の体験から学んだ家族のつながり

上尾市立中央小学校

五年

高谷

莉央・・・・・・・・・・4

【優秀賞】

はたふりをしてくれる人へ

上尾市立大石南小学校

五年

岡田

涼昌・・・・・・・・・・5

「なまえらわれている」という事

上尾市立原市小学校

四年

石田

希彩・・・・・・・・・・6

中学生の部 目次

| | | | | | |
|----------|-------------|-----------|----|--------|----|
| 【最優秀賞】 | 地域のきずな | 上尾市立東中学校 | 一年 | 平鍋 文菜 | 8 |
| 【市長賞】 | 「思いやり」 | 上尾市立瓦葺中学校 | 二年 | 丸山 玲南 | 11 |
| 【教育長賞】 | 支え合いの温かさ | 上尾市立瓦葺中学校 | 二年 | 佐々木 優羽 | 13 |
| 【審査員特別賞】 | がんばれるエネルギー | 上尾市立西中学校 | 三年 | 島田 陽向 | 14 |
| | 「近所のおばあちゃん」 | 上尾市立上尾中学校 | 一年 | 漆原 未侑 | 16 |
| 【優秀賞】 | あいさつから始まる友情 | 上尾市立瓦葺中学校 | 二年 | 福田 夕葵 | 17 |
| | 感謝の気持ち | 上尾市立瓦葺中学校 | 二年 | 松澤 咲弥 | 19 |
| | 感謝を忘れず | 上尾市立瓦葺中学校 | 二年 | 金井 菜那璃 | 21 |
| | 友達とのエピソード | 上尾市立瓦葺中学校 | 二年 | 鈴木 萌華 | 23 |



小学生の部



最優秀賞

カラスが気づかせてくれたこと

上尾市立中央小学校 六年 星野 太希

ぼくの近所ではゴミ出しの日、よくゴミ置き場でカラスがゴミを食い荒らしています。家の塀の前をゴミ置き場にしてくれているお向かいさんをはじめ、近所の方とぼくのお母さんが交代で、ゴミ収集の日に、ゴミがカラスに荒らされないように、ネットからはみ出さないよう工夫してゴミをつめたりし、カラスに対応しています。

夏休みの初めの頃、お母さんが仕事に行く日、カラスがゴミ置き場でゴミを荒らしていたそうです。しかしお母さんは、急いでいたので、メールでぼくにカラスの対応をお願いしてきました。生ごみのおいがきつかったり、何度もカラスを追い払ったり、重いゴミ袋をネット内につめたりするのは、根気のいる作業でした。この作業をやりながら、お母さんたちへの深い感謝の気持ちが湧き出てきました。それと同

時に、近所の人たちとのカラスの対応のつながりの輪に入れた気持ちになって、役に立てるという感じがしました。陰でこんなめんどうくさい作業をやっていることを知れば、何も考えず適当にゴミを置いていた人たちも、気づかいをしてくれると思います。今後ぼくは、今までカラスの対応をしてくれた人たちの負担を減らすために、その人達のお手伝いをしたいと思います。また、このカラスのことで、他のことも陰で支えてもらってるのではないかと考えるようになりました。これからは細かいところまで目を配らせて、カラスの対応をしてきている人たちのように、人の役に立ちたいと思いました。



友達で変わった自分

上尾市立原市小学校 六年 齋藤 華

「なぜ、あいさつをしないの。」

それが、母親が旗振りをした日の夜に私に言う口ぐせだった。私はその度に（だって、周りの人がしていない中、大きい声であいさつをするのははずかしいんだもの。）と思いつながら言い訳をしていた。そんな事が五年間も続いた。

六年生の五月、朝の集合場所の近くで、おばさんから、あいさつをされた。前にいる同級生の友達は、あいさつをしていた。次は私の番だったが、あいさつをしなかった。次々と人が通り、その度に友達は、笑顔でしっかりあいさつをしていた。あいさつをした方が良いと分かっている、出来なかった。そんな自分が友達のあいさつを聞く度に、みにくかった。くやしかった。（二度だけ、思いきってやってみようかな。）人が通った時に友達に続いて言ってみた。相手が笑

顔で返してくれた。うれしかった。気持ち良かった。次の人にも、あいさつをしてみた。無視をされた。悲しかった。なにより、今までこの人のように自分もしてきた事が情けなかった。この時、あいさつをする事のはずかしさより、しない事のはずかしさの方が大きいことに気がついた。それからあいさつは、毎日するようになった。

七月、色々な人に自分からあいさつが、出来るようになった。あいさつをきっかけに、近所の人とも会話が出来るようになった。

私は、友達のおかげであいさつができるようになった。あいさつの大切さを、知る事が出来た。私は、これからも、たくさんあいさつをしていこうと思った。



野球をやって身についたこと

上尾市立富士見小学校 六年 山本 伸吾

ぼくは、小学校四年生の春から野球を始めました。友達に誘われたからです。

最初は、あいさつができなかつたので、かんとくやコーチに注意されていました。また、練習中にチームメイトに声がけもできませんでした。なぜなら、あいさつをしたり、声がけしたりするのは、緊張してしまうからです。

けれども、かんとくやコーチから、礼儀やコミュニケーションは大事なのであいさつや声がけをしなさいと言われて、最近ではできるようになりました。そのおかげで、地域の人や学校の先生にもあいさつができるようになりました。

また、ぼくは野球を始めるまでは、努力の「ど」の字も知りませんでした。一つのことを毎日こつこつやるのが苦手でした。

けれども、かんとくから、「努力は裏切らない！」と言われて、毎日自主トレーニングをするようになりました。そうしたら、試合でヒットが打てるようになりました。やつぱり、かんとくの言った言葉は正しかったと思いました。

この間、ぼくは野球だけがをしてしまいました。それで、練習も少し休みました。久しぶりに練習に行くと、みんなが心配してくれたのでうれしかったです。この春日ジュニアキングに入って良かったと思います。

野球を始めたおかげで、あいさつや声がけ、努力すること、仲間とのきずななどいろいろなことを教わりました。これからも野球を続けてがんばって行こうと思います。



審査員特別賞

祖父の体験から学んだ家族のつながり

上尾市立中央小学校 五年 高谷 莉央

私のおじいさんは八十才です。おじいさんはいつも優しく、保育園の時は、いつも送り迎えをしてくださいました。近くに住んでいるのでよく顔を見せに行き、ご飯と一緒に食べたり、お手伝いをしています。

八月十五日終戦記念日に戦争中の事を私に話してくださいました。「少し難しい話だよ。」と言い、私はそれを聞きたいと思いました。紙に地図や名前を書きながら、ゆっくりかつくわしく話してくださいました。

おじいさんが生まれてすぐ日本はアメリカと戦争をすることになり、三年以上の戦争で日本は負け一九四五年八月十五日に終わりました。おじいさんの家族は今の北朝鮮にいました。明治のロシアとの戦争で日本が勝ち、朝鮮半島を治めるけんりをもらいおじいさんのおじいさんが朝鮮へ働きに行き、おじいさんもそこで生まれたそうです。戦争に負けたら

北朝鮮は朝鮮人に返すので、日本に帰らなければいけません。おじいさん家族は今の韓国が一番南にある釜山という港まで何百キロも歩いてにげ、昼間は朝鮮人に会わないように夜だけ歩くので何日もかかりました。ばくだんが落ち大きな火花がたくさん散り、とても怖く、不安だったそうです。小さい引き揚げ船には大勢の人が乗っていておじいさんはお母さんと離れないように手をしっかりとにぎり、何時間も動けず、苦勞して日本に帰りましたが間もなくおじいさんのお母さんは腸チフスという伝染病にかかり亡くなってしまいました。

四才のおじいさんが経験した事は戦争を知らない十才の私が想像しても本の中の話の様です。おじいちゃんがづらい中生きてくれたから、私のお母さんが生まれ、私が生まれました。家族をつなげてくれたきせきの感謝の気持ちがいっぱいです。七十七年前の戦争を知る人は少なくなってきたけどこれから私にできる事は、戦争の事を忘れず、もっと学んで伝えていく事、そして家族の絆を大切に毎日を丁寧に生きる事だと考えました。

はたふりをしてくれる人へ

上尾市立大石南小学校 五年 岡田 涼昌

「おはようございます。」「いってらっしゃい。」「気をつけてね。」「車がくるから、ちよつと待ってね。」などと声をかけながら、ぼくたちのために旗ふりをしていただき、本当にありがとうございます。旗ふりをしてくれていている人のおかげで、ぼくはいつも登校する時も、元気に安全に学校に行けています。それに、「いってらっしゃい。」など、明るい言葉をかけてもらっているのです。いつもぼくは、心の中では、「今日も一日勉強をがんばるぞ!」というような、明るくて、真面目な気持ちになります。毎朝、学校に行くとき、車がくるときには「車がくるからちよつとだけ待ってね。」とやさしく声をかけてくれるので、少し安心します。「おはよう」って声をかけてくれるときもあるのです、明るい気持ちになれます。下校するときも、「気をつけて帰るんだよ!」などととてもやさしく

親切に声をかけてくれるので、ほつと一安心します。帰る時、「ごっちの横断歩道をわたりますか?」と聞いてくれているので、ぼくも、やさしい気持ちになります。ぼくは、これから大人に向かってどんどん大きくなっていきます。自転車もこれから使っていくと思います。それで、自転車にのるときは、かならずヘルメットをつけます。自転車せん用のスペースがあったら、その場所を使う、道路をわたる時は必ず、自転車をおりるなどのルールを絶対に守りたいです。歩く時も横断歩道を必ず使うなどしっかりとルールを守っていきたいです。それに一人で知らない所や人けのない場所には絶対行かないようにします。それで、何よりも大事なものは、知らない人についていけないことです。はたふりの方々、これからおうえんしています。



「ささえられているという事」

上尾市立原市小学校 四年 石田 希彩

私は、学校生活をふり返るとたくさんの人達にささえられていると思います。

例えば、忘れ物をしてこまった時にかしてくる友達や他の友達とロゲンカをしてしまった時に話を聞いてアドバイスをくれる友達、勉強でこまった時にコツを話し合える友達等、学校生活では毎日「ありがとう」を感じる事がたくさんあります。

それに、先生もまちがっている事や私の足りない部分を指てきしてくれたら、こまった時は、話を聞いてくれます。言われてすぐには、すなおに聞けなくても、次、同じ様な事が起こった時に、先生の言っていた事を思い出してスムーズにかい決出来て、先生の言っていた通りだったなと思う事もたくさんあり、そんな時は、思い出して良かった、先生ありがとうと思います。

何かあった時に思い出すのではなく、言われた時にすなおに聞けたらもっとちがってただろうなとも思うので、この四年生のうちに人の話しをもっとすなおに聞ける自分になろうと思いました。

そして、友達の手してくれた親切は、私も周りの人達にしていこうと思いました。





中学生の部

地域のきずな

上尾市立東中学校 一年 平鍋 文菜

初めましてと言うのは、ちよっぴり緊張する。それが、地域の中の関係だったら、そのハードルも下がるだろう。しかし、私は、自分が地域の人との関わりが薄くなっているのではないかと危機感を持っている。ここ数年で、自粛生活が続いたり、行事の回数が減ったりすることで、このように思う人も多いだろう。昔は、もっとたくさんの人と助け合って暮らしていたと。これからは、自らがきっかけをつくって、地域で生きることが大切になると私は考える。

私が小さいころ、アツピーランドでよく遊んでいた。アツピーランドは、十八歳までの子供が対象の、児童館だ。雨の日でも、屋内の遊具でめいっぱい体を動かせて、晴れの日には中庭で日の光を浴びながら活動することができる、お気に入りの場所だった。中で

も思い出に残っているのは、中庭の砂場だ。なぜなら、初対面の友達と、関わった経験が多かったからだ。

当時は、よく砂の山を作って遊んだ。砂場では、スコップやバケツなどの道具を、いくつか借りることができた。もちろん、人が少ない時は、思う存分に使うことができた。しかし、人が多い日は、どうしても道具が足りなくなってしまいう時がある。その様な時は、前の人が使い終わるまでの順番を待ったり、年下の子にゆずったりした。この砂場は、不便な時こそ、社会性を育むチャンスを与えてくれた場所だったのだ。また、次の様な出来事もあった。私が砂の山を作っている途中、同じぐらいの年の子が、一緒に作り始めたのだ。二人で協力して完成させた砂の山は、私の大切な思い出の一つである。名前も知らない初対面の人と、これほどまで意気投合できたのは、これが最後かもしれない。

さて、七月末に行われる、上尾夏祭りはご存じだろうか。たくさんのお屋台と、華やかな神輿を見ていると、その場にいるだけでわくわくしてくる。私は、小学生の時に、父と祭りの手伝いをしたことがある。神輿を担ぐ方々に、飲み物や軽食を配るのだ。今まで、遠

くから見ているだけだった神輿は、近くでみるともつと豪華で、重そうだった。汗だくで町内をめぐる、会の人のあふれ出すほどの熱意に尊敬する。私も、真心込めて挨拶と共に飲み物を渡し続けた。その日は、目を見張るほどの晴天で、数十分滞在しただけでも疲れが出る。それでも、たくさんの人に貢献することができた。やり切れたのは、互いに交わした挨拶のおかげだった。初対面の人も、祭りを成功させたいという同じ目標を持った。あの時に感じた、地域のつながりは、とても強く、深いものだったに違いない。

しかしながら、今までのエピソードは学生までの出来事で、中学生になってからは地域との関わりが薄れてきたように思える。実際、私は今年の夏祭りには行かなかった。同級生に聞いても、行く予定が無いという話もちらほらと聞いた。難しくなる勉強や日々全力をそそぐ部活動、さらには習い事も本気になる中学生だ。私たちは、特に、行事などの参加がおっくうになってしまうのかもしれない。今回の夏祭りも、私にとっては学期末の忙しい時期にあり、行く事が難しかったのが現実だ。でも、絶対に行けなかったわけではなかった。二〇二〇年、二〇二一年と中止に

なってしまった夏祭りは、無くなってからさびしきを感じた。やっと実施する事ができた今年の夏祭りには、行くべきだったと思う。行事への参加は、その場でしか味わえない魅力が一杯あるからだ。一方、SNSが広まった事により、対面せずとも、会話や情報を得る事が出来るようになった。良い面でもとらえれば、便利になったといえる。だが、行動力も下がるだろう。それにより、地域との関わりが薄まってしまう可能性も考えられる。今こそ、地域のきずなを試す試練の時代だろう。これからは、行事や施設に頼る他にも、私たちが率先して人々をつないでいく必要があると思う。

私は、たくさんの方々が支えてきてくださったおかげで、ここまで成長することができた。思い返してみると、思い切り遊べる施設や、たくさんのお話を学べた行事など、どの思い出にも誰かとのつながりがみられる。一方、様々な事が便利になって、外に出ずとも何でも出来るようになった今、地域のつながりを最重視していく必要がある。これからの上尾が、人々のつながりが深い町であるには、私たち一人ひとりが動き出さなければならぬはずだ。今後、

私は気持ちの良い挨拶を心がけたいと思う。小さな
ことでも、誰かの笑顔のためになるはずだからだ。よ
り良い地域のために、みなさんも、自ら動き出して
ほしいと思う。



「思いやり」

上尾市立瓦葺中学校 二年 丸山 玲南

私は毎朝ゴミ出しをしてから登校します。なので近所の方とよく会ったりすることがあります。

私が使っているゴミ置き場は、カラスがゴミを散らかさないように工夫がしてあります。どういう工夫かというと、上からネットがかけられるようになっていて、簡単に持ち上げられないように木の重りが付いています。この工夫した取り組みは、近所の方が手作りで作ってくれたものです。近所の方は、道を通るときや、自分の家の近くでゴミが散らかっていたら不快な思いをすと思う作ってくれたのだと思います。また、ゴミが散らかっていたら掃除もしてくれていたのです。

他にも、私がゴミをネットの中に入れようとしていたとき、近所の方が、「大丈夫？やるよ。」と言って

手伝ってくれました。一人の方だけではなく、いろんな方が手伝ってくれるのです。

また、登校するときや下校するとき、習い事に行くときなど「行つてらっしゃい。気をつけてね。」「おかえり。」などという優しい言葉をかけてくれます。私が赤ちゃんのとときから知っている方は、「大きくなつたね。」「何歳になったの？」と温かい言葉をかけてくれます。

私の家のおとなりに住んでいる方は高齢な方です。毎年バレンタインの日に、チョコレートを兄弟全員分くれます。また、雪が積もった年には、私の家の前も雪かきをしてくれたことがありました。

私は近所の方にたくさん支えられているということに、あらためて気づきました。自分のことだけを考えているのではなく、周りの人のことも考えて、ゴミ置き場を工夫して作ってくれたり、掃除をしてくれたりすることに感謝しなければならぬとあらためて思いました。さらに、あいさつをしてくれたり、手伝ってくれたり、私は優しい方たちが近所で良かったなと思いました。だから、次は私の番です。もし、困っている人がいたら手伝ってあげたいと思います。

そして、思いやりのある言葉をたくさんかけられる
ようになりたいと思います。



支え合いの温かさ

上尾市立瓦葺中学校 二年 佐々木 優羽

私が病院の外で呼び出されるのを待っていた時のお話です。

その日は休日だったので若い人からお年寄りの人まで様々な年代の人がたくさんいて、いつも以上に混み合っていました。それに加えてとても暑い日だったので涼しい病院の中には席が一つも余っていませんでした。そんな中病院にたくさん汗をかけた若いお兄さんが入ってきました。お兄さんはこの病院に来るのが初めてなのか、とてもあたたかふたしてました。声をかけた方がいいのか考えましたが話しかけるのも怖いし、私の勘違いだったら恥ずかしいのでためらっていると、少し離れた所にいたおばあさんがお兄さんの方に歩いていきました。するとおばあさんは「この紙を持ってあそこに入れるの！分かった？」とニコニコの笑顔でお兄さんに教えてあげ

ました。そうしたらすぐに違う所に行って他の人にも教えていました。おばあさんがもっていた場所に戻ってくると先程のお兄さんが「本当にありがとうございます！助かりました。」と笑顔で言っていました。その後におばあさんが「大丈夫よ。人間助け合ってななぼよ。」と言っている所を見てすごいなと思うのと同時に話したこともないおばあさんがとてもかっことよく見えました。全身汗だくになるくらい暑かったけれど、心まで温かくなった気がしました。

おばあさんの様に困っている人にすぐ声をかけてあげるのは、誰もができるわけではないだろうし、とても難しいことだと思います。けれど、このおばあさんとお兄さんみたいに助け合い、支え合ったからこそ生まれる感謝もあると思います。感謝の言葉は言った人も言われた人も、もしかしたらそれを聞いていた人も温かい気持ちになれると思います。だからその言葉を聞くためにも頑張って一歩を踏み出して、困っている人がいたら声をかけられるようにしたいと思えました。そして、自分が支えてもらった時には感謝の気持ちを必ず伝えたいと思います。

がんばれるエネルギー

上尾市立西中学校 三年 島田 陽向

「人という字は支えあつてヒトとなる」皆、一度はこの言葉を聞いたことがあると思います。昔のドラマ『金八先生』のセリフだと聞きました。本当は甲骨文字という昔の文字から発展しただけで本来の意味とは異なると知りましたが、僕は「人と人が支え合う」は素敵な解釈だと思えます。なぜなら中学生になつて様々な「支え合う」を体験したからです。

（中学一年生）

「今日から中学生か」僕は緊張とわくわくした気持ちをいじめて入学しました。僕は特別支援学級に所属し、右も左もわからない中学生生活。最初は委員会の仕事や、提出物の管理などで失敗を繰り返して、よく注意されていました。そんなことがあつて随分と落ち込んでいました。しかし、移動教室の場所が分らず困っていた時に案内をしてくれたり、委員会の仕事を

サポートしてくれたり、先輩方が親切に教えてくれました。それがきっかけで仲良くなり、少しずつ学校生活に慣れていきました。それから僕は数教科、通常学級の授業に行くことにしました。最初はとても緊張しましたが、クラスみんながとても優しく迎えてくれました。そのおかげですぐに授業になじむことができました。その時、少しみんなの「やさしさ」に気づき始めました。

（中学二年生）

時が経つのはとても早く「ついに俺達にも後輩ができるんだな」友達とそんな話をよくした気がします。それから二、三ヶ月の月日が経ち僕は自分が本気で好きなことや頑張りたいことを見つけて、真摯に取り組むようになりました。その一つとして僕は毎日でランニングをしていました。すると近所のおじいちゃんや、おばあちゃんが「よく頑張っているね」と応援してくれたり、学校で悩み事が無いか、よく心配して話を聞いてくれたり、ときにはお菓子なども差し入れてくれました。とても嬉しくて、温かい気持ちになりました。しかし、ある日小さい頃からずっとお世話になっていたおばあちゃんが認知症で老人

ホームに行ってしまった。その時はショックで心にぽっかり穴が空いた気分でした。その後も色々辛いことや大変なことがありましたが、家族に相談して、どうしたら解決するかなど話し合い、乗り越えることができました。それ以来、僕の家庭では話し合いを大切にしてきました。

〈中学三年生〉

本当の意味はどうであれ「人と人は支え合っている」と、やはり私は思いました。自分が友人や、近所の人や、家族など沢山の人間に支えられてきたからです。そしてこれからは自分の夢であるゲームクリエイターになり、ゲームを通じて人を支える側になりたいという目標ができました。



「近所のおばあちゃん」

上尾市立上尾中学校 一年 漆原 未侑

私にはおばあちゃんが三人います。両親のお母さん二人と、もう一人は裏に住むご近所さんです。血のつながりはないので、「みえさん」と呼んでいます。みえさんにはまだお孫さんがいないので、本当の孫のようにかわいがってくれます。

みえさんとの出会いは、私が引っ越してきた十年前になります。二さいだった当時のことはもちろん覚えていませんが、みえさんはよく覚えていてくれます。幼稚園のこともあまりよく覚えていませんが、毎年運動会を見に来てくれました。誕生日には毎年絵手紙とプレゼントをくれました。卒園式の日には、ちらしずしを作ってくれました。小学校の入学式には、チューリップをプレゼントしてくれました。お庭でナスやきゅうりのしゅうかくをさせてもらったり、花に水をやるお手伝いをしました。中学校に入

ってからあまり会う時間がありませんが、あいさつをするるとつい話しこんでしまいます。制服姿を初めて見たときは成長を喜んでくれました。

改めて思い返してみると、いつもかわいがってもらうばかりで、何も恩返しできていないことに気がつきました。話しかけてくれるのがうれしいと言ってくれますが、近くに住んでいるからこそできることがあるはずです。すぐには思いつきませんが、話しをしながら考えて、さりげない恩返しを実行していきたいです。



あいさつから始まる友情

上尾市立瓦葺中学校 二年 福田 夕葵

皆さんは、近所の人や地域の人に会ったら、ちゃんとあいさつをしていますか。私は少し前まではしていませんでした。

私は小学生の頃から人と関わるのが苦手な近所の人や地域の人とは怖くて話すことは、できませんでした。こんな性格なので、小学校でも、同じ学年の子にしかあいさつできません。色々な子と仲が良いというより、特定の子と仲が良い、そんな感じで小学校時代を過ごしていました。だから、ハキハキとしゃべって色々な子と仲良くできる子がすごくうらやましかったし、あこがれていました。そんな気持ちのまま中学校に上がり、不安と緊張が入りまじった気持ちで、入学式を迎えました。知らない子がたくさんいて、すごくドキドキしたのを今でも覚えています。私が入学した頃は、コロナウイルスが流行っており、初日

はあまりクラスの子とお互いにしゃべったりせずに帰りました。次の日に、朝、教室で座っていると、前の席の女の子が、「おはよう」と声をかけてくれたのです。でも人見知りの私はとっさに声をかけられなかったので、小さい声で、「おはよう。」としか返せませんでした。その子はニコツと笑って、他の子の所へ行ってしまった。私は、「つまらない子だと思われたのかな。もっと大きな声で返せばよかった。」と、すごく後悔し、自分が情けなくなりました。別の日、その子の横を通った時、話をしている内容が聞こえてきました。私の好きなアイドルの話をしていました。私と同じ趣味を持っていたことにすごく驚くと同時に、私の心に「この子と仲良くなりたい。」という気持ちが生まれました。しかし私は、人に話しかけることに苦手意識を持っていたので、どうすれば良いのか全く分かりません。そこで私は一番仲の良い友達に相談することにしました。すると友達は、「会話が苦手なら、あいさつから始めて見れば。」というアドバイスをもらいました。私は、アドバイス通り、次の日の朝、勇気を出してその子に「おはよう。」と声をかけてみました。するとその子は笑顔で「おはよう。」と

返してくれました。その勢いで、以前話をしていたアイドルについて、探ねてみました。そのことがきっかけで今ではその子と仲が良くなり、同じ部活に入り、一緒に帰るような仲になりました。私はあのときの友達の言葉がなければ、勇気を出せなかったと思います。アドバイスをくれた友達には、感謝しても、しきれません。

このような経験から、私はたくさんの人に大きな声であいさつするように心がけるようになりました。少しの勇気から、たくさんの人とつながることができるんだということを私は実感しています。コロナウイルスが流行し、人と人の関わりが薄いものになってきているこの時代にこそ、あいさつという文化を大切にしていくべきではないでしょうか。少しの勇気、一言のあいさつから始まることはたくさんあります。皆さんも自分から積極的にあいさつを試みてはいかがでしょうか。



感謝の気持ち

上尾市立瓦葺中学校 二年 松澤 咲弥

みなさんは、自分が暮らす地域を支えてくれている人や、自分のことを支えてくれている人に「感謝」をしていますか。

私の地域では、毎月一回土曜日に、小さい子からお歳寄りまで幅広い人が気軽に立ち寄ることが出来る。「あおぞらひろば」というものがあります。そこでは静かに本を読むスペースがあったり、ちよつとしたゲーム、七輪でおせんべいや、マシユマロを焼くことができたりと、誰でも楽しめるように工夫されています。実際に「あおぞらひろば」に行ってみて、普段関わりが少ない地域のお歳寄りの方や、幼い子と遊んだり、お話しをしたり、リラックスをして、気軽に過ごすことが出来ました。「あおぞらひろば」に行ってみて私は、場所や時間をつくってくれている地域の方々に感謝をするようにしようと思いました。

他にも、地域の方々が登下校の道に時間をつくって私たちのことを支えてくれています。

私が暮らす地域では、私たちを支えてくれる方々、守ってくれる方々がたくさんいます。

私はこれから、私たちを支えてくれたり、守ってくれたりしている方々に、日ごろから感謝の気持ちを忘れずに生活したいと思います。また、感謝の気持ちを込めて、すれちがった時に、明るく元気にあいさつをするようにしたいです。

みなさんの地域には、どんな工夫がされていて、どんな方々がどんなことをしてくれていますか。ゴミ拾いをしたり、ボランティア活動をしていていたりしてくれている方が多くいると思います。そんな方たちに対して感謝の気持ち、「ありがとう」という気持ちを常に思っていますか。

私は、「ありがとう」などといった、感謝の気持ちはとても大切なことだと思います。みなさんも、地域の方々への感謝の気持ちを大切にしているのはどうでしょうか。もちろん支えてくれているのは地域の方々だけではありません。友達や家族たくさんの方がいると思います。どんな人に対しても、「ありがとう

う」などといった感謝の気持ちを持つ、伝える、ということはとても大切な事だと私は思っています。
みなさん、感謝の気持ちを常に忘れず、大切にしていきましょう。



感謝を忘れず

上尾市立瓦葺中学校 二年 金井 菜那璃

みなさんは日頃から「ありがとう」という感謝の言葉を誰かに伝えることは出来ていますか。「ありがとう」は誰が言われてもうれしく、心が温まる言葉だと思っと思っています。この言葉は思っっいても、なかなか声や文字で表せず、相手に感謝を伝えられない人もたくさんいるはずです。私も少し前は、相手に感謝を伝えることが苦手でした。けれど今では、素直に伝えられるようになりました。

伝えられるようになったきっかけは、私の担任の先生です。先生は、今年から入った新しい先生なのですが、とても明るく学校のみんなに元気を与えてくれるすてきな先生です。私の学校は朝読書や朝の会をしている時に、クラスの担任をもっていない先生方が、廊下をモップで掃除してくれています。私達が過ごしやすい環境になるように朝から掃除してくれ

ているのに私は先生方に直接「ありがとうございます」の一言も言えませんでした。それに比べて私の担任の先生は、「先生いつもありがとうございます。助かります」と先生方一人一人に言っっっていたんです。私はそれを見て、自分が情けなく恥ずかしくなりました。私はそれをきっっかけに先生のように思ったら素直に感謝を伝えられるようになりたいと思っしました。伝えられるようになるために私は二つのことをしました。

一つ目は、生活の中で意識することです。些細なことでも「ありがとう」と伝えることで普段の生活で意識しすぎなくても伝えることが出来るようになりました。

二つ目は、家族に協力してもらっっことです。一緒にいることが一番多いお母さんが、何か言っっくれたり、してくれられた時に感謝を伝えるべきな時に言えていなかったら、お母さんに注意してもらっっ意識できるように心がけました。

私は、この二つのことをしてから自分の心に余裕が持てるようになりました。「ありがとう」と素直に言えるか言えないかでこんなに気持ちの変化がある

とは思いませんでした。最近では、お父さんやお兄ちゃん、おばあちゃんが「前よりもありがとうが良く言えるようになったね。笑顔も増えた気がするよ」とほめてくれました。伝えることが苦手だった私でも、今では自然な笑顔で出来るようになってよかったです。私は、これまでにたくさん感謝をし、感謝をされてきたけれど、私のしていた感謝は日頃思っただけでも伝えきれていなかったことに気付きました。私は良く間違えたり、上手く出来なくて周りに支えてもらう事が多いと思います。もし、周りの子に何かしてもらったり、支えてもらった時は、当たり前だとは思わずに口に出して「ありがとう」という感謝の気持ちをしっかりと相手に伝えたいです。そして、これから私は感謝の気持ちを忘れずに、自分の中でこの気持ちを大切にしていきたいと思います。



友達とのエピソード

上尾市立瓦葺中学校 二年 鈴木 萌華

私は、この夏休みにも「ありがたい。」と感じたことや、「成長できた!」と思うことがあったのでこのテーマで作文をかくことにしました。

私がそう感じたのは主に部活です。夏休みはコーチが教えに来て下さったり、練習試合が数回ありました。コーチが来てくれて、みんなが上達する様に工夫しながら教えてくれたから、みんなが強くなれたと思います。また、練習試合では、暑く遠い中時間をかけてまで来て下さったおかげで試合ができたし、自分の弱点にも気づけたから、すごいありがたいと思います。そして、部活でとても感謝しているのは先輩方です。練習をする時は楽しく、時には厳しく教えてもらい、ここまで成長できたと思います。それを二年生である私達が引き継ぎ、後輩達にもつないでいけるように頑張りたいです。

そして私は、中学校に入ってから変わったことがあります。それは、友達との関わり方です。小学生の時に仲の良かった友達とは言い合いもせず、喧嘩をすることがありませんでした。その時私は「これが親友」と思いました。けれど六年生の時から話すことが減り、遊ぶことも無くなりました。中学校に入学し、新しく友達ができ、その子とは嫌だと思ったことは言いあえる子です。そして喧嘩になることもあるけどすぐ仲直りして、お互いが「ずっと一緒にいたい。」と思える関係になれたと思っています。当たり前のように感じるけど、ずっと一緒にいられるのもすごいと思うし、学校を楽しめているのも友達がいってくれるおかげだからしつかり感謝したいです。

最後は、家族に対してです。今私は、なんの不自由もなく快適に過ごせています。それは毎日働いて、ご飯を作って、私達の為にしてくれていることがたくさんあるからです。また、小さい時から私たちを支えて、困った時、うれしい時、悲しい時も話を聞いてくれました。その時にくれたアドバイスなども成長につながっているのではないかと思います。

私達は、何気ない日常でも成長につながっているのではないかと思います。いろいろな人がいる中、支えあっているから、自分も周りからたくさん感謝されるような人間になり、いろいろな人と仲良くなってきたいです。また、それぞれみんなが支え合っている、あたたかい社会を作っていきたいです。



社会福祉法人 上尾市社会福祉協議会

〒362-0011 上尾市大字平塚724番地

TEL 048-773-7155

FAX 048-772-8647



ホームページはこちら



ツイッターはこちら

